

## ごんぎつね②

|    |  |
|----|--|
| 名前 |  |
|    |  |

「ごんぎつね」を読みながら、ことばのきまりを勉強しましょう。

①から⑤までのひらがなをへくのなかに入れてながら読んでみましょう。

### 【例】

これは、私が小さいときに、村の茂平もへいというおじいさんへからくきいたお話です。

むかしへはへ、私たちの村へのちかくの、中山というところへに小さなお城へがあって、中山さまというおとのさまが、おられたそうです。

①が ②に ③の ④から ⑤は

### 【一】

十日ほどたって、ごんへへ、弥助やすけというお百姓の家の裏を通りかかりますと、そのの、いちじくの木のかげで、弥助の家内やまが、おはぐろをつけていました。鍛冶屋かじやの新兵衛しんべいの家のうらを通ると、新兵衛の家内やまが髪へへすいていました。ごんへへ、

「ふふん、村に何かあるんだな」と、思いました。

「何なにだろう、秋祭かな。祭なら、太鼓や笛の音がしそうなものだ。それに第一、お宮へへのぼりが立つはずだが」

こんなことを考えながらやって来ますと、いつの間にか、表に赤い井戸へへ

ある、兵十の家の前へ来ました。

- ①が ②に ③の ④を ⑤は

【二】

その小さな、こわれかけた家の中には、大勢の人へあつまっていました。よそいきの着物へ着て、腰へ手拭をさげたりした女たちが、表のかまどで火をたいています。大きな鍋の中では、何かぐずぐず煮えています。

「ああ、葬式だ」と、ごんへ思いました。

「兵十の家へだれが死んだんだろう」

- ①が ②に ③の ④を ⑤は

【三】

お午がすぎると、ごんへ、村の墓地へ行つて、六地藏さんのかげへかくれていました。いいお天気で、遠く向うには、お城の屋根瓦が光っています。墓地へ、ひがん花へ、赤い布のようにさきつづいていました。と、村の方から、カーン、カーン、と、鐘が鳴って来ました。葬式へ出る合図です。

- ①が ②に ③の ④には ⑤は

【四】

やがて、白い着物を着た葬列のものたちがやって来るのがちらちら見えはじめました。諱声（トナリ）へへ近くになりました。葬列は墓地へはいつて来ました。人々が通ったあとへへ、ひがん花が、ふみおられていました。

ごんへへのびあがって見ました。兵十が、白いかみしもをつけて、位牌（イハ）へへささげています。いつもは、赤いさつま芋（サツマ）みたいな元気のいい顔へへ、きょうは何だかしおれていました。

「ははん、死んだのは兵十のおっ母だ」  
ごんはそう思いながら、頭をひっこめました。

- ①は
- ②が
- ③を
- ④には
- ⑤も

【五】

その晩、ごんは、穴の中へへ考えました。

「兵十へへおっ母は、床についていて、うなぎが食べたいへへ言ったにちがない。それで兵十がはりきり網をもち出したんだ。ところが、わしがいたずらをして、うなぎをとって来てしまった。だから兵十は、おっ母にうなぎへへ食べさせることができなかった。そのままおっ母は、死んじゃったにちがない。ああ、うなぎへへ食べたい、うなぎが食べたいとおもいながら、死んだらう。ちよつ、あんないたずらをしなけりやよかった。」

- ①が
- ②で
- ③の
- ④と
- ⑤を

## 答え

### 【一】

十日ほどたって、ごん（が）、弥助というお百姓の家の裏を通りかかりますと、そのの、いちじくの木のかげで、弥助の家内が、おはぐるをつけていました。鍛冶屋の新兵衛の家のうらを通ると、新兵衛の家内が髪（を）すいていました。ごん（は）、

「ふふん、村に何かあるんだな」と、思いました。

「何だろう、秋祭かな。祭なら、太鼓や笛の音がしそうなものだ。それに第一、お宮（に）のぼりが立つはずだが」

こんなことを考えながらやって来ますと、いつの間にか、表に赤い井戸（の）ある、兵十の家の前へ来ました。

- ①が ②に ③の ④を ⑤は

### 【二】

その小さな、こわれかけた家の中には、大勢の人（が）あつまっていました。よそいきの着物（を）着て、腰（に）手拭をさげたりした女たちが、表のかまどで火をたいています。大きな鍋の中では、何かぐずぐず煮えています。

「ああ、葬式だ」と、ごん（は）思いました。

「兵十の家（の）だれが死んだんだろう」

- ①が ②に ③の ④を ⑤は

【三】

お午がすぎると、ごん〈は〉、村の墓地へ行って、六地藏さんのかげ〈に〉か  
くれています。いいお天気で、遠く向うには、お城の屋根瓦が光っています。  
墓地〈には〉、ひがん花〈が〉、赤い布のようにさきつづいていました。と、村  
の方から、カーン、カーン、と、鐘が鳴って来ました。葬式〈の〉出る合図で  
す。

- ①が ②に ③の ④には ⑤は

【四】

やがて、白い着物を着た葬列のものたちがやって来るのがちらちら見えはじ  
めました。譚声〈も〉近くなりました。葬列は墓地へはいつて来ました。人々  
が通ったあと〈には〉、ひがん花が、ふみおられていました。

ごん〈は〉のびあがって見ました。兵十が、白いかみしもをつけて、位牌〈を〉  
ささげています。いつもは、赤いさつま芋みたいな元気のいい顔〈が〉、きょう  
は何だかしおれていました。

「ははん、死んだのは兵十のおつ母だ」

ごんはそう思いながら、頭をひっこめました。

- ①は ②が ③を ④には ⑤も

【五】

その晩、ごんは、穴の中へで考えました。

「兵十へのお母は、床についていて、うなぎが食べたいへと言ったにちがない。それで兵十がはりきり網をもち出したんだ。ところが、わしがいたずらをして、うなぎをとって来てしまった。だから兵十は、お母にうなぎへを食べさせることができなかった。そのままお母は、死んじゃったにちがない。ああ、うなぎへが食べたい、うなぎが食べたいとおもいながら、死んだんだろう。ちよつ、あんないたずらをしなけりゃよかった。」

- ①が ②で ③の ④と ⑤を